

高橋康也監修。佐々木隆編。

執筆分担分については、全 30 巻＋別巻 2 編集。

執筆担当分（別巻 2）

日本シェイクスピア概論—『シェイクスピア研究資料集成』の解説として—、pp. 317-357

概要

本書により幕末より現代までの日本におけるシェイクスピアの全貌が明らかとなった。復刻も含め、すべての資料の掲載についての編集を担当した。特に評価を受けているのは、これまでなかなか公表されることのなかった資料を発見したことである。全 30 巻のうち、第 24 巻に『日本シェイクスピア協会会報』（昭和 5 年～10 年）を収録した。この協会誌はこれまで散在して、まとまった形でみることができなかったが、この存在をつきとめ、本書に収録した。また、第 28 巻～第 30 巻に『シェイクスピア劇評集Ⅰ』『シェイクスピア劇評集Ⅱ』、『シェイクスピア映画評集』をあて、これまで注目を浴びていなかった劇評や映画評を大きく取り上げた。これだけの分量の劇評映画評がまとめられたのも、日本におけるシェイクスピア研究史上、はじめてのことである。さらに、別巻 1 と別巻 2 でシェイクスピアが受容されてから平成 8 年までの日本におけるシェイクスピア書誌とシェイクスピア劇上演史を集大成した。なお、解説では、受容史から「日本のシェイクスピアと国際化」や「シェイクスピアと国際文化交流」について特に論じることになった。（A 5）